

こうなりました

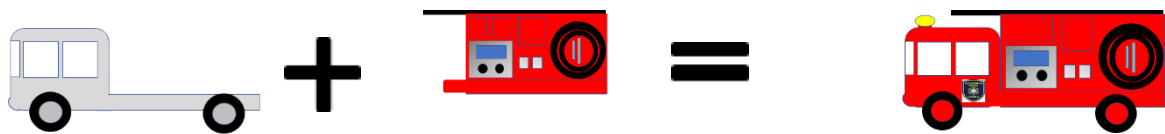
突然、罰ゲームかなんかで、
「消防車、買ってきて！」って言われたらどうします？



そんなことが起こるはずがないというツッコミは置いておいて、
みなさんは、消防車はどこで売っているかご存じですか？

乗用車のように、販売店に行って「これにします！」って感じでは手に入らないのです。
(特殊な場合を除きますが、)消防車は消防車の形では販売されていません。
「でも、消防車にも自動車メーカーのロゴやエンブレムが付いているじゃないか？」
と思われた方はスルドイ！
よく観察されている証拠です。

ですが、自動車メーカーが消防車を作って販売している訳ではありません。
たしかに、自動車メーカーの車体を使っていますが、
ポンプなどの「消防」としての装備は専門のメーカーが作っていて、
それらを組み合わせて消防車が完成します。



ザックリだとこんな感じ。

寒冷地域、温暖地域、山間部、海岸部、大都市、郊外、工業地帯、農業地帯、温泉地など、消防本部の規模やそれぞれの事情に応じた仕様で作っていますので、消防本部ごとに、又は配置するエリア(消防署)ごとに仕様が変わります。

もちろん税金が使われているのですから必要最小限の装備になります。

しかし、より迅速安全に人命を救出するためには、新しい機器の導入も考慮しなくてはなりません。さらに車両重量や運転免許の制約もありますので、仕様書の決定まで担当者は考えまわっています。



いろいろな手続きを経て契約が完了すると、自動車メーカーからポンプの専門メーカーに自動車(シャーシ部分)が届けられ、その工場ではポンプや配管、電気系統などを組み込んでゆく節目の段階で中間検査や完成検査を行います。そのほか緊急車登録など様々な手続きが完了してやっと出来上がります。

実際にはこんな感じで納車されて、



そして何か月もかかって、こうなりました。



この車両は R4 年度予算で購入し、R5 年3月に現場配置されています。

ポンプの操作
及び表示部は
デジタル系に
なっています。

すこし積み込みが進んでいましたが、積載品の撮影もできました。スペアタイヤ以外は全部積載されます。



アレ?と思われた方、またまたスルドイです!!
えっ、ナニ?って思われた方に角度を変えてもう一度



お気づきになりました?
当消防本部では消防車に
「ほうき」と「ちり取り」を乗
せています。



なんとなく懐かしい感じ
がする竹ほうきも見えます
が、魔女ごっこをするため
ではありません。



交通事故現場で事故車
両からオイルが漏れている

場合に、珪藻土や間伐材などを原料とした粉末状の油吸収材を使用する事がありますが、吸収が終わったあとの吸収材を掃除回収するために「ほうき」と「ちり取り」を積載しています。

激しさを増す気象現象、
そして、やっと収束したラニーニャ現象でしたが、
今年からはエルニーニョ現象が始まる予測が出されています。
これから雨の多くなる季節です。
スリップ事故などにも十分ご注意下さいね。



< 参 考 >

気象庁エルニーニョ監視速報 (No. 368) 令和5年5月12日 <https://www.data.jma.go.jp/>

HUMAN PICTOGRAM2.0 <https://pictogram2.com/>